

## 〔 1 1 〕 東臼杵地区小体連

(学校数 16 校 児童数 1,429 人)

### I 年間事業

日 時	内 容	場 所
6 月 19 日 (火)	第 1 回東臼杵地区小体連理事会・評議員会	諸塚村中央公民館
7 月 23 日 (月)	美郷町小学校水泳大会	美郷南学園プール
7 月 24 日 (火)	諸塚村水泳記録会	諸塚村営プール
7 月 25 日 (水)	椎葉村小体連水泳大会	椎葉小プール
10 月 12 日 (金)	諸塚村小学校陸上記録会	諸塚村総合運動公園
10 月 16 日 (火)	椎葉村小体連陸上大会	椎葉村総合運動公園
10 月 19 日 (金)	門川町小学校陸上教室	門川町海浜総合公園
10 月 26 日 (金)	第 59 回宮崎県学校体育研究発表大会に参加	川南町立川南小学校
2 月下旬	第 2 回東臼杵地区小体連理事会・評議員会	諸塚村中央公民館

※ その他、各町村で体育主任会を数回実施している。

### II 事業部のあゆみ

#### 1 水泳大会・教室

地区	大会名	実施日	会場
美郷町	美郷町小学校水泳大会	7 月 23 日 (月)	美郷南学園プール
諸塚村	諸塚村水泳記録会	7 月 24 日 (火)	諸塚村営プール
椎葉村	椎葉村小体連水泳大会	7 月 25 日 (水)	椎葉小プール

【出場者】 諸塚村 3～6 年、美郷町・椎葉村 5, 6 年児童 (155 名)

【実施種目】 25 m (自由形、平泳ぎ) 50 m (自由形、平泳ぎ) 100 m リレー

#### 2 陸上大会・教室

地区	大会名	実施日	会場
諸塚村	諸塚村小学校陸上記録会	10 月 12 日 (金)	諸塚村総合運動公園
椎葉村	椎葉村小体連陸上大会	10 月 16 日 (火)	椎葉村総合運動公園
門川町	門川町小学校陸上教室	10 月 19 日 (金)	門川町海浜総合公園

【出場者】 門川町 6 年、諸塚村・椎葉村 5, 6 年児童 (246 名)

【実施種目】 100 m 走 50 m ハードル走 女子 800 m 走 男子 1000 m 走  
走り幅跳び 走り高跳び ソフトボール投げ 400 m リレー

※ 地区によって実施していない種目あり

### Ⅲ 研究のあゆみ

#### 1 研究主題・副題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方  
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

#### 2 主題設定の理由

現在、日本は、グローバル化や少子高齢化による生産年齢人口の減少、人間関係の希薄化など多くの問題を抱えている。その社会の変化の中で、我々は、様々な問題に対して長期的な見通しをもって、主体的に社会にかかわり、解決に臨むことが求められている。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を受けて、国民の体育・スポーツへの関心は高まってきている。さらに、日本社会における健康意識の高まりを受けて、健康食品や様々なダイエット法などに対する国民の関心も高まりを見せている。しかし一方でITの急速な進化を受けて、雇用形態の多様化が進み、健全な生活習慣や食習慣が保たれないようになってきている。

このような課題を受けて、児童は多様な変化の中、主体的に問題にかかわり、他者との話し合いを通して、新たな価値あるものを創造していく力が求められている。

東臼杵地区は、門川町、諸塚村、椎葉村、美郷町の4つの町村の小学校体育連盟が集まって構成されている。小規模校も多く、自然に囲まれ、児童は温かい人間関係の中で育ってきている。その一方、近くに公園や運動施設がなかったり、バスや車による登下校等で日常的に運動不足に陥ったりしているケースも見られる。そのため、運動能力の二極化が児童間で広がっている地区もあり、運動の機会が極端に少ないまま大人になってしまう児童もいるのではないかと心配される。人間形成において重要な時期である小学校段階に、運動に親しむ資質や能力の基礎を形成することは生涯にわたってスポーツに親しみ、健康な生活を送る上で大変重要である。

東臼杵地区では、研究主題を「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方」とし、4つの町村それぞれの小学校で児童や学校、地域の実態に応じて課題を設定し、研究に取り組んできた。

そこで、各学校での取り組みを継続させながら、児童がより主体的に運動に関わり、対話的で深い学びを実現するための手立てを講じることで、健やかな心と体を育み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることにつながるのではないかと考え、本主題を設定した。

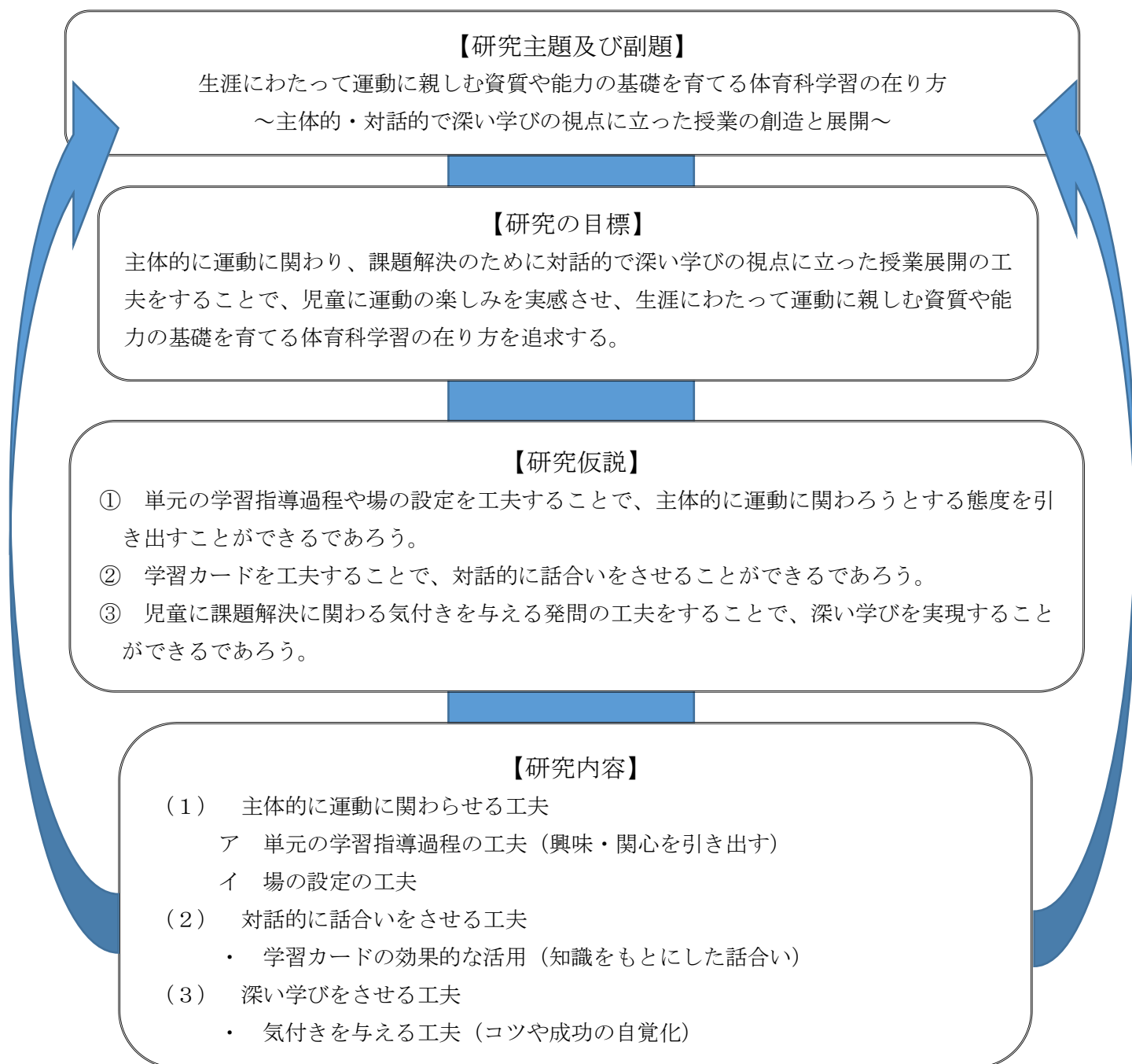
#### 3 研究の目標

主体的に運動に関わり、課題解決のために対話的で深い学びの視点に立った授業展開の工夫をすることで、児童に運動の楽しみを実感させ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方を追求する。

#### 4 研究の仮説

- ① 単元の学習指導過程や場の設定を工夫することで、主体的に運動に関わろうとする態度を引き出すことができるであろう。
- ② 学習カードを工夫することで、対話的に話し合いをさせることができるであろう。
- ③ 児童に課題解決に関わる気付きを与える発問の工夫をすることで、深い学びを実現することができるであろう。

## 5 研究の構想



## 6 研究の実際

### (1) 主体的に運動に関わらせる工夫

#### ア 単元の学習指導過程の工夫 (興味・関心を引き出す)

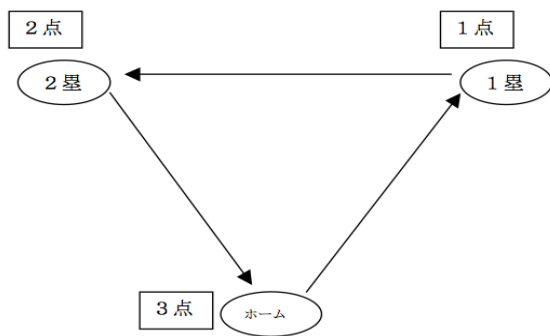
運動に主体的に関わろうとする意欲を引き出すため、興味・関心を高め、単元の最後に学びの活用として、記録会や大会を開くようにした。

第1時	第2時～第〇時	最終時
「やってみる」 ・ 運動との出会い ・ 課題の発見と共有 ・ 学習の進め方	「わかる・できる・かかわる」 ・ 補助運動による基礎的な技能の高まり ・ 主運動の技能の習得 ・ 対話的な話し合い ・ 記録への挑戦	「広げる」 ・ 記録会や〇〇大会 ・ 学びを活かす

第4学年ベースボール型「キックベース」の指導では、児童の興味・関心を引き出すために、チーム対抗でリーグ戦を行うことにした。

## イ 場の設定の工夫

ボール運動のゲームにおいては、得意な児童と苦手な児童との間に運動量の差が見られることが多い。そこで、場の設定の工夫として、ルールやコートの設定を工夫した。

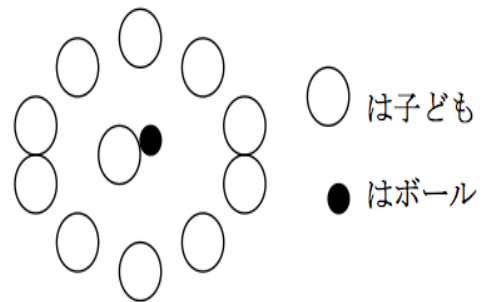


攻撃側のルールとして、苦手な児童でも得点を入れることができるように、三角ベースとし、一つのベースを通過するたびに、1点入ることにした。

得点が入りやすくなったことで、どのチームにも勝つチャンスが生まれ、児童のゲームへの集中度が上がった。

守備側のルールとして、打球を捕った児童の周囲に輪を作るように全員で集まり、座ったらアウトとした。さらに、集まったかどうかが見て分かるように、手をつないで輪を

作ることにした。このようなルールにしたことで、得意な児童と苦手な児童の間に運動量の差が出るものがなくなった。さらに、攻撃側の児童は、どこに蹴れば大量得点につながるか考えるようになり、「人がいないところに蹴ればいい」「遠くに蹴るだけでなく、守備側が後ろに下がっていれば弱く蹴ったほうがいい」など、自ら作戦を考える姿が見られるようになった。



## (2) 対話的に話を合わせる工夫

学習カードの効果的な活用を通して、より対話的な話し合いになるように工夫した。

# ゲームマスター

## ゲームのルール（仮定）

☐ ページにボールを落さない。  
☐ クラ。  
☐ コーンの数を数えるようにもする。（1コイン1個）。  
☐ 全質問に必ず回答する。（人数が合わない場合は多い分だけ）。

**ゲームのルール（守備）**  
☐ ボールを落とさないようにボールを捕まへ、手をつなぐ。  
☐ 無失点で、「アウト！」と宣言しなければならない。

**個人の役割分担（ゲーム後、すぐ変更可能）**

項目	例	1 経験者	2 経験者
（攻撃）得点の得点を得るべき	5点	..	..
（守備）敵がすにボールを落とすことを防ぐべき	得点の半分	..	..
（守備）敵がすにボールを落とすことを防ぐべき	敵の半分	..	..
（守備）敵がすにボールを落とすことを防ぐべき	敵の半分	..	..
（守備）敵がすにボールを落とすことを防ぐべき	敵の半分	..	..

**ゲーム後、すぐ変更可能**

攻撃者	守備者	ルール者
..	..	..
..	..	..
..	..	..

**この時間には自分の役割を、次の時間に協力しよう。**

**守備** 守備者の役割は、ボールを落とさないようにすること（守備の経験）。  
**攻撃** 攻撃者の役割は、ボールを落とさないようにすること（攻撃の経験）。  
**ルール** ルールは、ゲームの進行を管理すること（ゲームの進行）。  
**その他** その他（経験者など）経験者の役割は、ゲームの進行を管理すること（経験）。

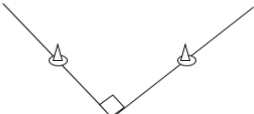
**ルール** ルールは、ゲームの進行を管理すること（ルール）。

**その他** その他（経験者など）経験者の役割は、ゲームの進行を管理すること（経験）。

キックベースボール  
等価作戦カード

どこにいたらアウトにしやすい（無失りやすい）かな？。

○きり形明書き込んでみよう。。



書画での説明も壁面に書いておこう。

個人の振り返りだけでなく、チームとして組織的な動きができたかどうかとも考えるよう指導した。また、守備作戦カードも用意し、自分のチームの実態や相手チームの特徴に合わせて、守備の配置も考えさせるようにした。また、ゲームの後に適宜振り返る時間を設け、自分たちのプレーの良い点を話し合わせたり、作戦の改善点を伝え合ったりさせた。

### (3) 深い学びをさせる工夫

気付きを与える工夫として、他のチーム同士の対戦を観戦する「見合いっこタイム」を設け、他のチームの動きを見ることで、よりよい動きや作戦について気付かせ、学びを深めるようにした。さらに、授業のまとめの時間に、他のチームの作戦の良い点や、真似したいところを発表し合うことで、気付いたことを共有することができた。

## 7 まとめ (成果と課題)

### (1) 成果

- 運動のゴールを示したことで、興味・関心を高め、主体的に取り組ませることができた。
- 学習カードを効果的に活用することで、児童間で対話的に話し合いをさせ、学びを深めることができた。

## (2) 課題

- 深い学びをさらに促すための発問の工夫をしていきたい。